

Business Report 株主通信

会社概要

(2015年12月31日現在)

商号 コスモ・バイオ株式会社
 設立 1983年8月25日
 所在地 〒135-0016 東京都江東区東陽二丁目2番20号 東陽駅前ビル
 資本金 918百万円
 事業内容 ライフサイエンスに関する研究用試薬、機器、臨床検査薬の仕入れ（一部自社製造）及び国内・海外販売
 従業員数 連結：122名 個別：94名

役員

(2016年3月24日現在)

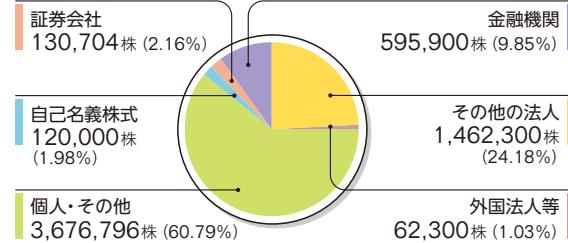
取締役会長 笠松 敏明
 代表取締役社長 櫻井 治久
 取締役 世良 伸也
 取締役 牧 与志幸
 取締役 島村 和也*
 常勤監査役 中野 重則*
 監査役 佐々木 治雄*
 監査役 深見 克俊* ※は社外役員

株式の状況

(2015年12月31日現在)

発行可能株式総数.....18,361,600株
 発行済株式の総数
 (自己株式120,000株を含む).....6,048,000株
 株主数.....5,752名

所有者別株式分布状況



大株主の状況

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
東京中小企業投資育成株式会社	1,152,000	19.43
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託	576,000	9.72
コスモ石油口 再信託受託者		
資産管理サービス信託銀行株式会社		
コスモ・バイオ従業員持株会	161,800	2.73
田中 知	156,800	2.65
高木 勇次	118,000	1.99
原田 正憲	104,500	1.76
株式会社ヤクルト本社	100,400	1.69
新日本空調株式会社	89,600	1.51
鈴木 由美子	82,300	1.39
船戸 俊明	75,400	1.27

(注) 議決権比率は、自己株式120,000株を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度 1月1日から12月31日まで
 定時株主総会 毎年3月開催
 基準日 12月31日
 剰余金の配当の基準日 6月30日、12月31日
 単元株式数 100株

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
 同お問い合わせ先 同証券代行部 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
 Tel. 0120-232-711
 公告方法 電子公告 <http://www.cosmobio.co.jp/>
 (ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載して行います。)

上場証券取引所 東京証券取引所 JASDAQ スタンダード
 証券コード 3386



株式に関するお問い合わせ先 ▶ 住所変更等、株式に関する手続き・お問い合わせは、お取引の証券会社へお願いいたします。



〒135-0016
 東京都江東区東陽二丁目2番20号 東陽駅前ビル
 Tel. 03-5632-9600 Fax. 03-5632-9613

特集

再生医療実用化の加速



Inspiration for Life Science

今後は取締役会長として、 企業発展に寄与してまいります



株主の皆様には、日頃より格別のご高配を賜り、心より御礼申し上げます。

私 笠松敏明は、このたび、当社代表取締役社長の任を退くこととなりました。在任中は、ライフサイエンス業界において信頼され、選ばれる会社、ステークホルダーの皆様からご期待いただける会社を目指してまいりました。この目標を見据え、まず、株式会社プライマリーセルの完全子会社化とその後の吸収合併、ビーエム機器株式会社の連結子会社化、株式会社B-Bridgeからの研究用試薬事業の一部譲受など、M&Aによる成長基盤の拡充を図りました。また、自社ブランド品の開発・強化を進め、収益の安定化と海外ビジネスの拡大を図りました。さらに、お客様から信頼され第一に選ばれるベストパートナーとなるべく、商品情報と物流システムの充実・強化を推し進めました。

これらの結果、売上高は徐々にではありますが確実に増収を続けてまいりました。ただ、利益面では、大幅な為替変動や価格競争の激化などが利益を圧迫する厳しい局面が続いており、今後の経営に課題を残す状況となっております。

私は今後、取締役会長として新社長による新たな経営の舵取りを側面から支援し、当社グループの更なる成長と発展に寄与してまいります。

株主の皆様には、引き続きご支援ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

取締役会長 笠松 敏明

新たな経営体制のもと、企業価値の 最大化に向け、まい進してまいります

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。
私 櫻井治久は、代表取締役社長を拝命し、当社の新たな舵取りを担ってまいります。

当社のこれまでの歩みを振り返れば、2000年にMBOによりコスモ石油株式会社から独立し、いわば「第二創業」とも言うべき時代を積極果敢に過ごしてまいりました。この15年間の成長・発展においては、コスモ石油株式会社から受け継いだ企業風土や経営資源が大きな支えとなってくれたのだと感じております。

しかし、現在の事業環境は、豊富な品揃えが競争力の源泉であった時代とは様変わりしています。研究者の活動が国境を越えた広がりをみせるなか、研究用試薬の流通もグローバル化と多様化の度を増し、厳しい価格競争や類似品の開発競争が巻き起こっています。生き残りを果たすためには、当社グループならではの“顧客満足”の追求が不可欠であると考えております。

次代を見据え、当社グループは新たな経営ステージへと歩みを進めます。本年を、いわば「第三創業」の始めの年と捉え、これからの時代に合った新しい企業風土、新しい事業価値の創造に挑んでまいります。そして、この挑戦が、当社グループの企業価値向上と株主の皆様への利益還元拡大へとつながるものと確信いたします。

株主の皆様には、引き続き当社グループの経営にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 櫻井 治久





代表取締役社長
櫻井 治久

◆ 社長職歴

- 1980年 株式会社大塚製薬工場入社 研究開発部生体物質研究室
- 1986年 日本学術振興会特別研究員PD
- 1990年 丸善石油化学株式会社入社 研究所バイオ研究室室長
- 1997年 当社入社
- 2006年 当社取締役
- 2011年 COSMO BIO USA, Inc. 代表取締役社長(現任)
- 2012年 当社常務取締役
- 2014年 当社専務取締役
- 2016年 当社代表取締役社長

「生命を科学する皆様の お役に立つ研究支援会社」として、さらなる成長を目指してまいります

Q 非常に幅広い立場や職種での経験を重ねてきていますね。

A 事業環境が大きく変わろうとしている今、そうした経験と知識をフルに活かしていきたいと思っております。

私が研究者として研究に没頭していた当時は、現在のように研究用試薬を開発・供給するメーカーもほとんどなく、自分の手で試薬を作ったり測定方法を開発したりしておりました。製薬企業に在籍していた期間にはセンプラントの立上げ、その後海外での診断薬キットの開発などにも携わりました。当社に入社し研究用試薬の供給側に身を置いてからは、技術サービスやマーケティング、国内外での事業開拓など多様な業務を執行・管理・統括してまいりました。

事業環境の大きな変化に対応していく上で、これまで積み重ねてきたさまざまな立場や職種での経験と知識を十二分に活かしていきたいと考えております。

Q 当期(2015年12月期)は増収に加え、利益面でも回復がみられましたね。

A 価格改定が収益改善につながりましたが、今後、激化する競争環境に巻き込まれない“独自の価値”の創造に努めてまいります。

ライフサイエンス業界は中長期的には成長市場であることに疑う余地はありません。しかし、近年は踊り場的な状況の

なかで競争が激化するという厳しい局面にあります。そうしたなか、当社の業績は、大幅な円安進行による仕入価格の上昇と価格競争の激化で利益率が低下傾向にあります。当期は、お客様のご理解を得ながら価格改定を実施させていただき、それと同時に販管費の一層の節減に努めた結果、営業利益をある程度回復させることができました。

行き過ぎた価格競争は、商品やサービスの質の低下を招いたり、良質な商品を市場から追いやってしまったりと、利用者である研究者に不利益がおよび業界の健全な発展を阻害する恐れもあります。当社は今後、競争を可能な限り回避・解消することができる独自の強さを身に着けていきたいと考えております。当社オリジナルの開発品、当社の独占契約品といった「モノとしての価値」や、“今すぐほしい商品の在庫があるのはコスモ・バイオだ”というような「時間的な価値」、さらには、正確で明快な商品情報や関連する学術情報を素早く提供できるといった「情報的な価値」など、他に類のないさまざまな価値を高めてまいります。

その意味でも、「コスモ・バイオ」というブランド価値をどのように位置づけ、どのように育てていくべきか、しっかりと検討していきたいと思っております。「コスモ・バイオ」という名前を聞けば、“複合的な価値を提供してくれる頼れるパートナー”といったイメージを持たれる存在を目指していきたいと思っております。

Q 今後のビジョンをお聞かせください。

A お客様に対しては満足度向上に、社会・業界に対しては業界をリードし次世代の育成に取り組んでまいります。

今後の経営において最も重視していきたいのは、「生命を科学するお客様のお役に立つ研究支援会社」として、顧客満足をさらに追求していく、ということです。顧客満足の基本は、どれだけお客様に寄り添うことができるかであり、お客様に寄り添うためには、“仕事は一人ではできない”ということをごまかせず、皆がしっかりと理解し協力しあえる、強い組織を作っていかなければなりません。高い専門性が求められる仕事だからこそ、さまざまな部署が連携に努めることで、獲得できる成果はより大きなものとなります。

また、当社は、ライフサイエンス業界の専門商社として国内唯一の株式上場企業であり、次代のライフサイエンスを担う次の世代の育成を、私たちがリードしていかなければならないと認識しております。ライフサイエンスに関連した学生たちの活動支援や大学等の公開講座への協賛などを、これからも継続かつ強化してまいります。こうした役割も積極的に担い続けることで、私たちは、単に売上・利益の成長だけではなく、社会的にも円熟した存在として成長していきたいと考えております。

引き続きご支援のほどお願い申し上げます。

特集：再生医療実用化の加速

2014年11月に再生医療関連2法が施行され、再生医療の実用化に向けた官民一体の取り組みが加速しています。厚生労働省の資料によると、2015年11月30日現在の再生医療等提供計画は、全国で1,890件(治療・研究の合計)にのぼります。2007年のヒトiPS細胞樹立と同様に、再生医療実用化の取り組みもまた、日本がリードし、世界中の製薬企業から多くの関心が注がれています。

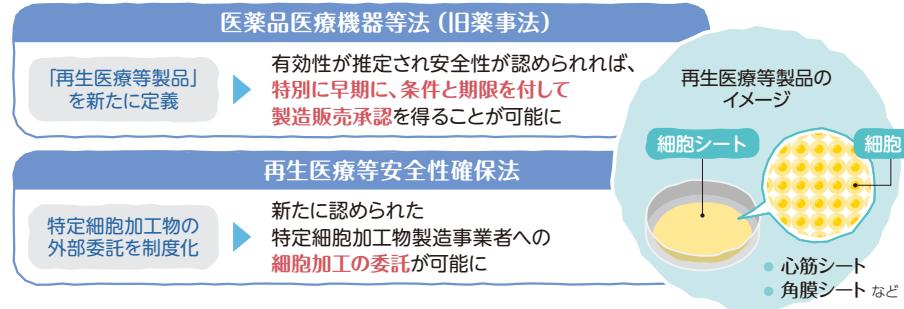


再生医療関連2法の施行で、何が変わったの？

再生医療関連2法の施行により、第一に、「再生医療等製品」に限定して承認までの短期化が実現しました。第二に、細胞加工の外部委託が認められ、民間企業も細胞の培養・加工の受託・生産が可能となりました。現在、細胞培養加工施設の数2,235件*にのぼります。今後、多くの患者さんが、従来の治療法に加えて再生医療による治療を検討する機会も増えていくでしょう。

*届出した医療機関2,194件、許可を受けた企業の工場等41件(2015年11月30日現在)

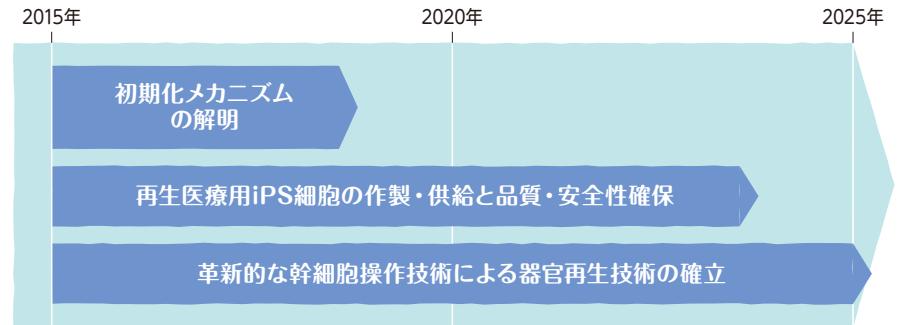
◆ 再生医療関連2法の施行によって可能となったこと(法律名は略称)



再生医療の主役であるiPS細胞の研究は、どんなふうに進んでいくの？

再生医療は、病気の根治や、他に代替手段のない病気の治療方法として期待され、多くの人々が早期実用化を待ちわびています。現在、安全性と有効性の慎重な見極め、倫理面への十分な配慮のなか、その中心となるiPS細胞研究は、右の図のように、基盤の整備と再生医療への実用化に向けた基礎研究が積極的に推し進められています。

◆ 再生医療に向けたiPS細胞研究ロードマップ



出所:「今後の幹細胞・再生医学研究の在り方について 改訂版」(平成27年8月7日/平成27年11月11日一部改正) 科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会、ライフサイエンス委員会 幹細胞・再生医学戦略作業部会



再生医療は今後、どこまで広がるの？

今後の急速な市場拡大予想は、再生医療への期待の大きさを反映している。

iPS細胞を用いた再生医療研究

主な研究対象

- 感覚器系
- 血液系
- 内分泌系
- 運動器系
- 神経系
- 循環器系
- 消化器系
- 腎尿路系
- その他(毛包、分泌腺、歯など)

今後の市場規模予想は右に示した通りですが、この急速な市場拡大予想は、再生医療への期待がいかに大きいか、そしていかに積極的な研究活動が行われているかを反映していると言えます。世界をリードする日本では、製薬会社だけではなく数多くのバイオベンチャーが参入し、iPS細胞を使用した安全な再生医療を目指す研究が進められています。

日本における再生医療の周辺産業市場規模予想

年	市場規模(億円)
2012年	91
2020年	954
2030年	1.0兆
2040年	-
2050年	2.5兆

「再生医療の実用化・産業化に関する報告書 最終とりまとめ」(平成25年2月/再生医療の実用化・産業化に関する研究会/経済産業省)より作成

コスモ・バイオは、細胞培養事業で培った独自の技術・ノウハウを活かして、今後の増加が見込まれる細胞輸送に貢献します。

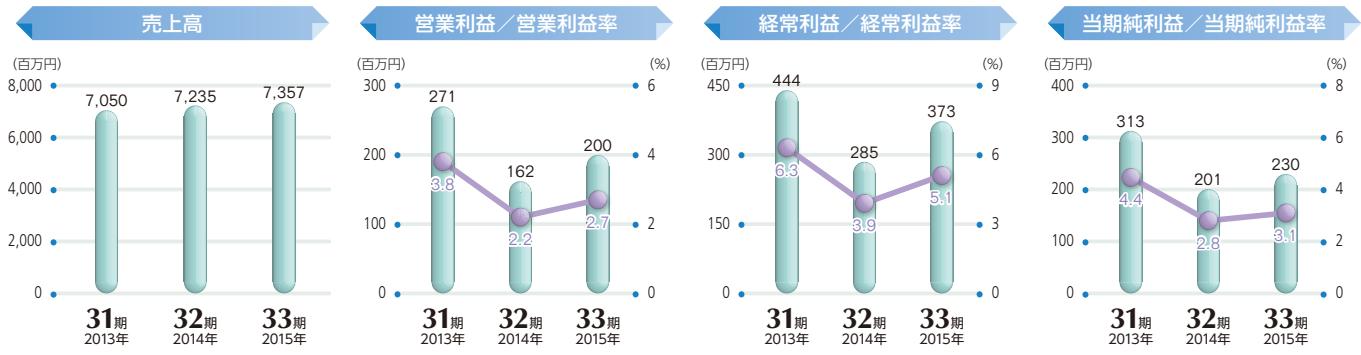
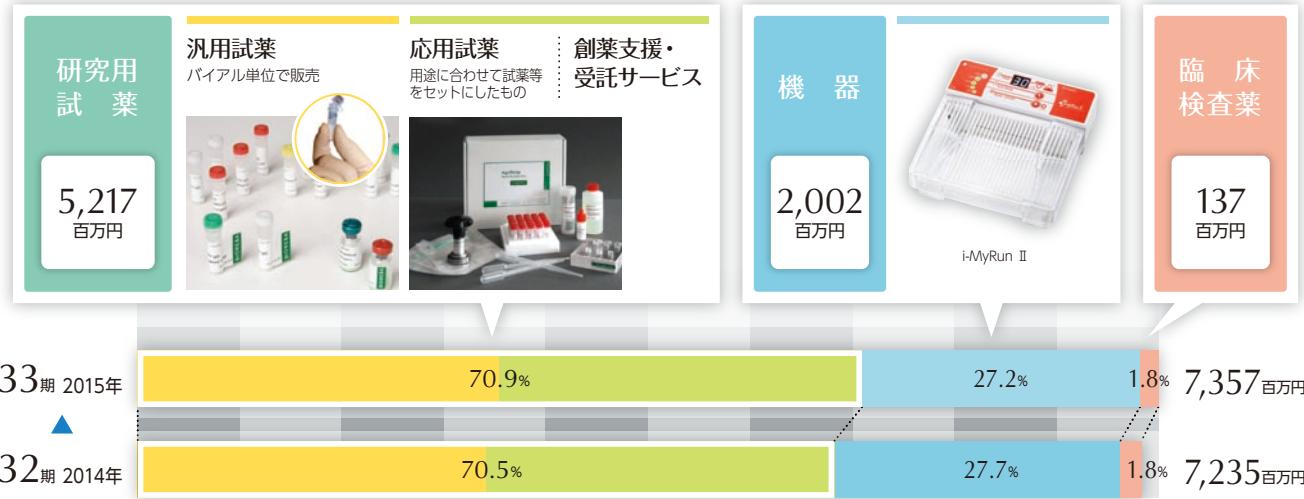
今後ニーズが高まる細胞輸送技術

民間企業が、厳密な温度管理下で培養した細胞を安全に病院などの医療機関に届けるためには、物流段階においても同様に温度管理を行うことが重要です。

コスモ・バイオでは、2008年より培養細胞を一定の温度で輸送できる容器の開発に着手し、2012年より自社製造の研究用初代培養細胞の国内輸送に使用してきました。さらに、低コストで一定の温度を保つことができる輸送容器の実現を目指し、2015年10月より「細胞・組織用定温輸送容器」の販売を開始。すでに民間企業に導入され細胞輸送の現場で活躍しています。

業績・財務のご報告(連結)

商品分類別連結売上高



営業の概況

ライフサイエンス研究関連の試薬・機器市場の動きは、全体的に活発でなく、特に大学、公的研究機関においては、近年の慎重な予算執行の傾向が続きました。また、同業他社との販売競争も激しさを増しています。こうした厳しい状況下、商品の充実、情報の発信、納期

の改善等、顧客の信頼度向上を図ることに取り組んだ結果、抗体や細胞・培養関連の試薬を中心に売上を伸ばし、売上高は前期比1.7%増となりました。利益面では、販売費及び一般管理費の一層の節減に努め、営業利益は同23.7%増となりました。

連結貸借対照表(要約)

(単位:百万円)

	前期 2014年12月31日現在	当期 2015年12月31日現在
流動資産	5,234	5,266
固定資産	2,927	2,523
資産合計	8,161	7,790
流動負債	1,130	1,017
固定負債	497	394
負債合計	1,628	1,412
株主資本	5,469	5,623
その他の包括利益累計額	579	327
少数株主持分	482	427
純資産合計	6,532	6,378
負債純資産合計	8,161	7,790

連結損益計算書(要約)

(単位:百万円)

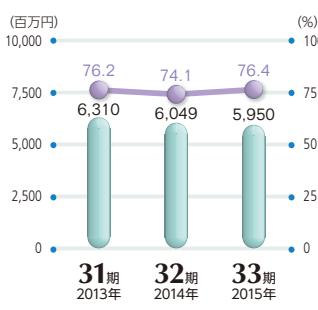
	前期 2014年1月1日~ 2014年12月31日	当期 2015年1月1日~ 2015年12月31日
売上高	7,235	7,357
売上総利益	2,424	2,380
営業利益	162	200
経常利益	285	373
当期純利益	201	230

連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

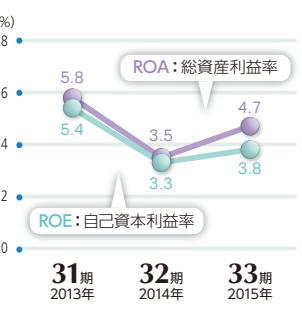
(単位:百万円)

	前期 2014年1月1日~ 2014年12月31日	当期 2015年1月1日~ 2015年12月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	297	129
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 227	△ 263
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 122	△ 151
現金及び現金同等物の期末残高	1,383	1,098

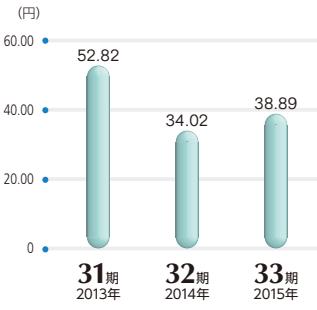
自己資本/自己資本比率



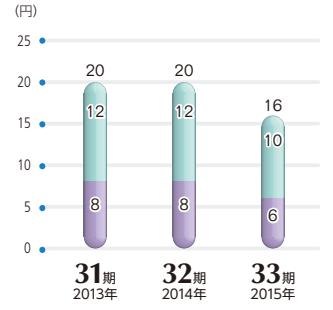
ROA/ROE



1株当たり当期純利益



1株当たり配当金



株主還元

当社では、株主の皆様への利益還元を経営の重要事項の一つと認識しております。当社の株式を長期的かつ安定的に保有していただくため、安定配当を行っていくことを念頭に置き、配当性向を重視しつつ、今後の収益状況の見通しなどを総合的に勘案して決定すべきものと考

えております。当期の配当は、1株当たり中間配当6円、期末配当10円(上場10周年の記念配当2円を含む)、年間配当16円とさせていただきます。この結果、連結配当性向は41.1%となっております。

トピックス

Topics 1 「個人投資家向け会社説明会（福岡）」を開催

2015年11月に、日本証券新聞社主催の「個人投資家向けIRセミナー」において会社説明会を行いました。



※当社ウェブにて、説明会の資料およびQ&Aをご覧ください。

ホーム > IR情報 > 個人投資家向け会社説明会

<http://www.cosmobio.co.jp/ir/individual/>

Topics 2 コージンバイオ株式会社へ出資

2015年9月、約30年間にわたり継続的な取引を行ってきたコージンバイオ株式会社を実施する、第三者割当による新株10,000株を引き受けました。

同社は、組織培養用培地のパイオニアで、かつこの領域において日本トップクラスの実績を有しており、出資は当社の収益基盤の拡大にも繋がるものと考えております。

KOHJIN BIO

代表	代表取締役社長 中村 孝人	設立年月	昭和56年4月
所在地	埼玉県坂戸市	資本金	335百万円

Topics 3 合成生物学の大会「iGEM」に参加した、国内7チームを支援

2015年9月、アメリカ・ボストンのマサチューセッツ工科大学にて、iGEM2015世界大会が開催されました。出場した日本チームのうち、7チームを当社が支援。その全チームが、各分野で金・銀・銅いずれかのメダルを獲得されました。



バラの香りの抗菌作用を活用した「香蔵庫」の開発で金メダルを獲得した「長浜バイオ大学チーム」

Topics 4 毎年恒例の「公開講座応援団」を実施

大学等が行う公開講座に協賛し、ライフサイエンスの面白さと楽しさを伝えるお手伝いをしています。2015年度は、9団体の公開講座に協賛しました。

2015年度に開催された講座の一例



世界一行きたい科学広場in宗像



当日の様子

表紙について



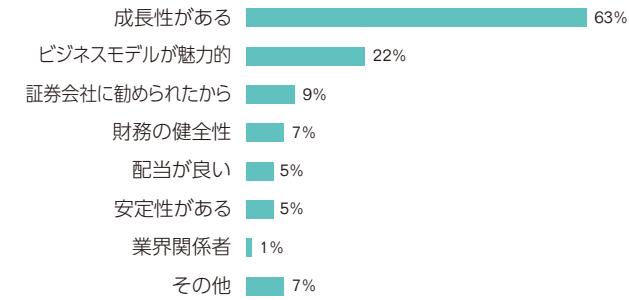
地球上には無数の命と無限の可能性があります。私たちコスモ・バイオは、この命の神秘を解き明かすライフサイエンスを支援することで、人と科学のステキな未来を創造していきます。今回の表紙は、様々な命が生まれ、瞬間を小さな光がまたたくイメージに重ね、ライフサイエンスの持つ多様な可能性を表現しています。

株主様アンケートのご報告

アンケート結果の詳細は、当社ウェブに掲載しています ▶ <http://www.cosmobio.co.jp/ir/report2016/>

第33期第2四半期株主通信において、第4回目となる株主様アンケートを実施させていただいた結果、436名の株主様よりご回答をいただくことができました(回答率7.3%)。皆様の貴重なご意見を参考にさせていただきながら、今後のIR活動の一層の充実と、積極的な経営による成長の持続を図ってまいります。

◆ 当社株式の保有理由(複数回答あり)



◆ 株主の皆様のお声の一部

- 円高・円安に左右されない経営を期待しています
- 株価の上昇を期待しています
- 将来のことを考え、積極的な投資活動を行って欲しい
- 販売力のある商品開発に努めて欲しい
- これからも公開講座など、CSR活動を頑張ってください
- 高齢化社会に貢献することを期待しています
- 難病に苦しんでいる人の希望になるよう頑張ってください
- 株主通信いつも楽しみにしています。ワクチンと免疫システムとの関係も分かりやすく良かったです
- 今後もアンケートを通じ株主とのコミュニケーションを図ってほしい

株主の皆様のご質問にお答えします

Q コスモ・バイオのグループ会社について教えてください。

A グループ会社として2社を有しています。ビーエム機器株式会社(連結)は主にライフサイエンス研究に使用される大型機器、小型機器、消耗品などを国内外から仕入れ、大学・公的研究機関・民間企業等に代理店を介して販売しています。Cosmo Bio USA, Inc.(非連結)は北米市場における当社商品の販売代理店であるとともに、将来性のある有望な新規サプライヤーの探索等を行っています。

国内では試薬と機器の両面から研究者をサポートし、北米では日本の優れた試薬の情報発信・販売と共に新たな技術の探索・日本国内への早期導入を行うことでシナジー効果を発揮しています。

研究用試薬等の販売(一部開発・製造・受託サービス)

人と科学のステキな未来へ
コスモ・バイオ株式会社

高社機能 メーカー機能 情報提供機能

研究用機器等の販売
ビーエム機器株式会社

北米における販売&リサーチ
Cosmo Bio USA, Inc.